

一般化された情報を誰もが共有することは、国民国家における民主主義の基本的な条件だが、それは余所行きでタテマエ的な言葉のやり取りにすぎず、身近な生活のリアリティや感情を込めて心を通わせる真の「コミュニケーション」とは言えない。そのような誰が伝えても聞いても理解できるような一般化された情報や記号を交換する「コミュニケーション」は、周囲の人びとと付き合い合い、語りあう固有の人間としての「コミュニケーション」を却って阻害する場合もあると筆者は言っている。このような筆者の見解に照らすと「コミュニケーション」を取る方が良いと勝手に思い込んでいる価値観が実は間違いで「コミュニケーション」が却って真実の探求を阻害する場合があることに気づく。

私たちが報道を通して知る「地球温暖化」という概念は、現在の国際的な学術会議による調査報告書から出されているものであり、その原因は温室効果ガスといった人為的なものだというのが一般常識ではあるが、それは実体験に基づいた事実ではなく、あくまでマスコミュニケーションを通して常識である。ところが「地球温暖化」は人為的なものではないと異論を唱える人も一部にいる。

